

令和5年5月6日

京口門だより No. 115

今年は春から初夏になろうというのに、寒暖の差が大きく、朝晩は寒く日中は暑い傾向がつづき、体調ももう一つ芳しくないという声を聞きます。新型コロナウイルス感染症も特別な対応をしなくてもよいとされますが、感染者数は減ってはいるもののいまだかなりの感染者がいます。一度感染した後に後遺症に苦しむ人もいます。高齢者や持病のある方は充分注意していただきたいと思います。

「子とあたる五月の炬燵(こたつ)旅戻り」(木村燕城)

今月は腎臓病と漢方について触れてみたいと思います。腎臓病は起こり始めは目立った症状はなく、尿検査で蛋白尿(正常では蛋白尿は見られません)や血尿といっても目に見えるようなものではなく、顕微鏡的血尿あるいは検査テープで潜血があることで発見されます。目に見えるような血尿は尿路結石かその他の病気を考えねばなりません。自覚症状はほとんどなく、体に浮腫がきたり、血圧が高くなることがあります。ですから腎臓病の発見が遅れることがよくあります。

腎臓病にもいろいろなタイプがあり、詳しくは精密検査として腎臓の組織を採取して(腎生検)判断しなければなりません。腎生検までしなくとも各種の検査である程度診断はつくようです。現代医学ではそれによって治療法も変わってきます。一般的には腎炎の半数近くは **IgA** 腎炎といわれており、しばしば風邪や扁桃炎の後、あるいは虫刺されの後アレルギー反応として起こってくる人が多いといわれています。蛋白尿、血尿、高血圧、浮腫をきたしてはいるが、検査上腎機能は正常範囲にある腎炎に対して、現代医学では積極的な治療法はあまりなく、保存的に経過をみて腎機能が悪化するのを早期に見いだすという方針が多くみられます。

こうした腎炎に対して漢方薬が大変有効な場合があります。小柴胡湯という漢方薬は腎炎の炎症にたいして、免疫的な作用や抗炎症作用をもっており、漢方薬として **IgA** 腎炎のような腎炎の初期段階から用いて蛋白尿、血尿などが改善する例がよく見られます。強い浮腫を起こし低たんぱく血症をおこすネフローゼ症候群にも有効です。妊娠中の **IgA** 腎炎の女性も無事出産された例もあります。腎疾患に漢方薬が有効であることも知っておいて下さい。

